**＃025R「自分らしく生きる私たち」**

柳城バージョン

★テゼBGM

●始まりの言葉と賛美歌の練習

これより、黙想と祈りの集いを始めます。はじめに、祈りの中で使う歌の練習をします。短い言葉を繰り返して歌いながら、祈りの心を整えましょう。最初に、先奏者がメロディーを１度通して歌いますので、続けてお歌いください。

テゼ①1番（インスト1）

テゼ②24番（7）

テゼ③49番（15）

★テゼBGM

★祭壇ロウソク点火

●本日の趣旨

【聖書の解き明かし】

今日取り上げる聖書箇所は、人生を真剣に生きる人々に向けられたイエス･キリストの福音です。

イエスが伝道を始めた頃、ガリラヤ湖で漁師をしていた人を弟子にするという記事がマルコ、マタイ、ルカの3つの福音書に記されています。マルコとマタイの記事は実に淡々としていて、イエスが「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」と声をかけると、「二人はすぐに網を捨てて従った」と書かれています。私たちの想像力を大いにかきたてる場面です。

「人間をとる漁師」と訳された原文のギリシャ語は「人間の漁師」となっています。イエスは「これからは魚ではなく人が相手です。罪人を招くためにやって来た私と一緒に宣教に励みなさい」と語っているのでしょう。

今日、私たちは、宗教という枠から少しだけ離れ、人間イエスのこの言葉をきっかけにして、自分の生き方を振り返ってみてはどうでしょうか。人は自分らしく自由に生きたいと願っていても、実際は、人間関係や雑多な情報など、周囲の環境に縛られて、その場しのぎの生き方に傾きやすいものです。そんなフラフラとした生き方ではなく、本当の自分らしい人生を見つけるには、偉大な人物から生き方の基本を学ぶ必要があります。つまり、基準があるから周囲の影響が避けられるというわけです。

さらに、保育を学ぶ学生と、その実現に向けてサポートをする教職員とが集うこの柳城においては、自分自身を向上させようという生き方が求められます。自分自身を甘やかしておきながら、子どもたちを教え導こうなどという傲慢さは、子どもたちに対して失礼だと言えましょう。「愛をもって仕える」という意味の一つは、実はこういうことなのです。

★テゼ①1番（1）

●二つの短いお話

①マザー･テレサの言葉より

私の天職、ついに私はそれを見つけました。私の天職、それは愛です。（中略）あなたに私の愛を証すために、私には花びらを投げるよりほかに方法がありません。それはつまり、どんなに小さな犠牲も、一つのまなざし、一つのことばも逃さずに、いちばん小さいことをみな利用して、それらを愛によっておこなうことです。

②現代に生きる私たちにとって、キリスト教は、どんな意味があるのでしょうか。多くの人は、イエス・キリストが私たちに「宗教的」になるよう求めていると思っているようです。人生の楽しみを忘れて実行不可能な道徳律を強いるために、イエスがこの地上に来られたと考えている、ほとんどの人が、イエスを過去に実在した偉大な指導者であると認めても、今日を生きる自分たちの人生には関係のない人だと考えています。以前、懐疑論者であったジョッシュ・マクドウェルも同じでした。大学生のとき、彼は、イエスを人間が従うことができないような規律を強いた宗教指導者の一人に過ぎないと考えていました。自分の人生には無関係で、イエスやクリスチャンとも関わりたくないと思っていました。

そんなマクドウェルが、ある日、学生会の昼食で、元気一杯の女子学生の隣に座ることになりました。輝くような笑顔の女性に、マクドウェルは、なぜ、そんなに嬉しそうなのかと聞きました。すると、女子学生は次のように答えました。

「イエス・キリストよ！」

「イエス・キリスト？」マクドウェルはイライラして言い返しました。「御願いだから、くだらないことを言わないでくれないか。宗教にも教会にも聖書にもうんざりしているんだ。くだらない宗教の話はしないでほしいよ！」

女子学生は、落ち着き払って答えました。「ミスター、宗教ではなく、イエス・キリストです」。女子学生の返答に、イエスを宗教的人物以上に考えたことがなかったマクドウェルは、唖然としました。宗教的偽善には関わりたくないと考えてきました。けれども、目の間にいる喜びに満ちた女性が、イエスのことを、人生に意味をくれた人であるかのように話しているのです。

★テゼ②24番（7）

●聖書

本日の聖書を朗読します。朗読の後、黙想の時を持ちますので、心静かに自分の生き方について振り返ってみましょう。

マザー･テレサは語りました。「沈黙を保つことは、孤独に陥ることではありません。沈黙を保つことは、自分自身と向かい合うこと･･･。」

【マルコによる福音書1章16節より】

1:16 イエスは、ガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、シモンとシモンの兄弟アンデレが湖で網を打っているのを御覧になった。彼らは漁師だった。

1:17 イエスは、「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」と言われた。

1:18 二人はすぐに網を捨てて従った。

1:19 また、少し進んで、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネが、舟の中で網の手入れをしているのを御覧になると、

1:20 すぐに彼らをお呼びになった。この二人も父ゼベダイを雇い人たちと一緒に舟に残して、イエスの後について行った。

【黙想】

★テゼ②24番（7）5回（BGM）

●祈りへの導き

「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」　このように私たちを導いてくれるイエス･キリスト。このイエスを信頼して、自分自身の生き方や柳城学院の在り方について、願い、希望、夢などを自由に祈りの形で表現してみましょう。

【自由祈祷/黙想】

●主の祈り

「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」　このように愛を語られたイエス･キリストに従い、彼が私たちに教えてくださった「主の祈り」を、心を込めて唱えましょう。

天におられるわたしたちの父よ、

み名が聖とされますように。

み国が来ますように。

みこころが天に行われるとおり地にも行われますように。

わたしたちの日ごとの糧（かて）を今日もお与えください。

わたしたちの罪をおゆるしください。わたしたちも人をゆるします。

わたしたちを誘惑におちいらせず、悪からお救いください｡

国と力と栄光は、永遠にあなたのものです。アーメン

●終わりの祈り

「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」　こう語るイエスの福音はすべての人に向けられています。

クリスチャンとは、簡単に言えば、イエスの生き方をまねる人のことですが、「そのように誰かに縛られる人生なんてつまらない」と考えるノンクリスチャンが日本には大勢います。でも、そういう人の多くは、実は、周囲の人間関係や流行に縛られて自分を見失っていることに気づいていないのです。つまり、イエスに従うということは、そんな周囲の影響を避けて、人生の正しい道を真っ直ぐに進んで行くということを意味するのです。実際、イエスに従うことで、マザーテレサは社会を愛で満たし、あの「幼児教育の父」であるフレーベルは子どもたちの大きな可能性を世間に知らしめたのでした。もちろん柳城学院も創設者ヤング先生がイエスに従って歩まれたように、120年の歴史を踏まえつつ、これからも歩み続けていきます。

祈りましょう。

イエス･キリストに感謝します、賛美します。イエスは世界を照らすまことの光です。この光を受け入れて、あなたのご計画どおりに、それぞれに与えられた能力や役割を十分に発揮できる人々が増えて、世の中が愛と正義に満たされますように。

たとえ、イエス･キリストが信じられなくても、他の偉大な人物に学びながら、この柳城において、子どもたちに対して恥ずかしくない人生を歩むための努力が惜しみなく続けられますように。そして、愛をもって仕える心と、自分らしく誇り高い人生を追い求める落ち着いた環境とが、大学礼拝を通して学内全体に広がっていきますように。

この祈り、

イエス・キリストのお名前を通してお捧げします。アーメン

★テゼ③49番（15）

★テゼBGM

★祭壇ロウソク消火

●終わりの言葉

これで黙想と祈りの集いを終ります。今日はともにお祈りいただき、ありがとうございました。主に感謝。